満州問題及国際聯盟脱退に対する労働代表一行の執るべき態度

一、満州問題に対しては昭和七年九月廿日第二回評議員会に於ける中「会セ
「今日の時局に直接に関係あるものとは考へないが資本主義の搾取機関セレ
ターの究極の目的とする侵略戦争には世界労働組合本来の主張に反対しなければ
ならぬ」と云ふ様なコレを理由化する為次の様な説明がなされた。

(イ) 日本の労働運動は政府の弾圧と資本家の買収(資本家の買収)不完全なる故カフェイン
ヤル日本が満州に於てトリツ、アルリ動に反対しタリ又はコレを妨害する為
来ない

(ロ) しかも日本労働階級と会る日本国民全体は国内の経済不況に悩まされて居る

(ハ) 日本人口は極めて相密である。一平方粁に三千一三四人である(コレに対し欧州は五一
人である英国は一四人である)

(ニ) 移住自由の原則は白人種の間には、過去に於て相互間に認められて居るが、而現在
に於ても今日もなほ移住制限が厳重になされば自由であるが有色人種である
日本人は有色人種である(英国人のみ)人類生存権としての自由なる権利が
日本は米国や各国に於て又は南洋に於て禁止されて居る。現状に於ては日本人の移住し
ない理由は地理的に遠いから移住出来ない

(ホ) 日本は日露戦争の結果満州に扶殖せる権益を失ひ、日清戦争の結果満州に扶殖せる
日露戦争の結果満州に扶殖せる権益を失ひ

(ヘ) 日本労働階級は英仏、日、和蘭、欧州諸国に於ける労働階級が女性の政府
に対し女権を与へ義務教育を施行し、アルトは横に帝国主義と
殖民政策に反対している。

(ト) 日本労働階級は英仏和蘭の欧州諸国に於ける労働階級が今直接に自国の政府
及支配階級に対し即時女権殖民地の解放を要求するに反対する
旨メナイ又第二インターナショナルが去年ブラッセルに於ける第六回大会に於て
加盟せるが如き直接に又は政府を呼びしなる女権者の解放を要求メナイが我等は
今コレは我々の主張に反する為に於ける労働階級の解放等が為めに同志ッテ
ルルト思う。

二、国際聯盟及国際労働会議に対しては二月廿四日の組合会議の決議
を遵守し、組合会議トレテハ日本が国際聯盟を脱退せる「脱退」
せなりと信ずるが労働運動の立場に於ては国際聯盟脱退が不可
避的状況にあり国際労働機関の擁護守るべき労働者の
異議我国政府を通じ其設置方法定せられ情の説明する。

昭和八年四月十八日

日本労働組合会議